

## 事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	無	電話	042(769)8355
担当部課名	保健福祉部	障害福祉課		
事務事業名	在宅障害者家庭内作業指導運営費		事業コード	11310

## 1 総合計画における位置づけ

政策名	第1章	安心して生活できる福祉社会をつくります	事業開始年度
基本施策名	第3節	障害者の自立支援と社会参加	~63年度
施策名	第1施策	自立した生活を実現するための環境づくり	

## 2 実施根拠及び関連法令等

県在宅障害者家庭内作業指導事業実施要領
市在宅障害者家庭内作業指導事業実施要領

## 3 事業概要

(1) 事業の目的		(2) 対象(誰、何)	
外出が困難な在宅障害者を対象に家庭内のできる作業を提供・指導し、働く喜びと社会参加の意識を高める。		外出が困難な障害者	
		対象数	10~14人
(3) 平成13年度事業の内容		(4) 総合計画・実施計画における概要	
・家庭内作業指導事業 1か所 4,500千円		なし	
		(5) 個別計画の概要	
		計画名	
		計画年次	年度~年度

## 4 評価指標

指標名	家庭内作業所設置充足率		
指標式	家庭内作業所で受入可能な人数 / 利用者数		
指標設定の意図	設置数が充足されているか評価する		

## 5 目標と実績

〔金額単位：千円〕

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度
	実績	実績	実績	目標	目標
指標	100	100	a 100	b 100	100
指標			c	d	
指標			e	f	
事業費	決算(予算)額	4,500	4,500	4,500	4,500
	人員・時間数	(2人)	(2人)	(2人)	(2人)
	人件費	57	57	57	57
	その他経費				
	合計	4,557	4,557	4,557	4,557
特定財源	2,250	2,250	2,250	2,250	2,250

6 個別評価

(1) 達成度…目標をどれだけ達成したか			
評価 A ▼	A : 達成している ( 100%)	= 、 、 の平均値 = 100.0%	
	B : 一部達成していない(100%> 80%)		
	C : 達成していない (80%> )		
$\frac{a}{b}$	$\frac{100.0}{100.0} \times 100 = 100.0\%$	$\frac{c}{d}$	$\times 100 =$
$\frac{e}{f}$	$\times 100 =$		
理由 :	設置数は満たされており、利用希望者はすべて利用できた。		

(2) 必要性…時代変化に適応した事業内容か			
評価 A ▼	A : 適応している	理由 :	知的と精神の重複障害者が在宅家庭内作業指導の対象者となっている場合が多く、その人たちを社会参加させる方法として必要性はある。
	B : 一部適応していない		
	C : 適応していない		

(3) 経済性・効率性…費用対効果は妥当か			
評価 A ▼	A : 妥当である	理由 :	指導員の訪問指導により、働く喜びと社会参加の意識が高まり、作業所等への通所が可能となった障害者があり、そこまで到達していない人でも徐々に社会参加へ近づきつつある。
	B : 一部妥当でない		
	C : 妥当でない		

(4) 事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か			
評価 A ▼	A : 代替の可能性ない	理由 :	継続して市が運営主体に対して補助を行っていく必要がある。
	B : 代替の可能性低い		
	C : 代替の可能性高い		

(5) 市民満足度…対象市民の満足は得られているか			
評価 A ▼	A : 満足できる	理由 :	利用希望者はいつでも利用可能であり、運営主体の適切な訪問指導により、働く喜びと社会参加への意識が高まっている。
	B : 一部満足できない		
	C : 満足できない		

(6) 有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か			
評価 A ▼	A : 有効である	理由 :	指導員の訪問指導により、徐々にではあるが働く喜びと社会参加の意識が高まっているため、当該事業は上位の施策を実現する上で有効である。
	B : 一部有効である		
	C : 有効でない		

<p>評価バランスチャート</p>	<p>成果向上の余地</p> <p><input type="checkbox"/> ある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ない</p> <p>説明 : 個別的に家族を含めたカウンセリングを行っており、成果は上がっていると判断する。</p>	
	<p>コスト改善余地</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ある</p> <p><input type="checkbox"/> ない</p> <p>説明 : 現補助額は中核市移行後、見直しをする必要がある。</p>	

7 総合評価

評価	AA ▼	他自治体の類似事業との比較	平成13年度 小田原市 2箇所 運営費補助金 9,000千円
			平成13年度 平塚市 1箇所 運営費補助金 4,500千円
			平成13年度 横須賀市 1箇所 運営費補助金 4,500千円
今後の進め方			
<input checked="" type="checkbox"/>	継続	説明	県市協調事業で行ってきた経過があり、在宅障害者の社会参加を進める上で、今後も事業を継続していく必要性はある。
<input type="checkbox"/>	見直し		
<input type="checkbox"/>	廃止		
<input type="checkbox"/>	完了		

8 二次評価における変更点

--